

## とんな子みっけ!



新入園児65名が仲間入りして29年度がスタートしました。入園する前から、「幼稚園に行かないと言っている」「みんなと一緒に行動できるか」etc...ご心配の声や、「先生ごめんなさい!入園までにオムツを取る約束が守れないかもしれません。」と、涙ながらに打ち明けてくれたお母さまもいました。そして、進級児のお母さまからも、「年少さんの時お世話してもらったように、うちの子もできるかしら。」という声も聞こえて来ていました。新入園児はもちろん、進級して新しいクラスになった在園生だって、お子さんによって個人差はあるものの、緊張や不安があるのは当たり前。そして、それを心配するお母さんの気持ちも親ごころですね。

4月のおたより帳のお返事は、「先生からの話を家で伝えている」とか、「トイレに行くのを嫌がっていたのに、オムツが取れるなんて!」「進級してから張り切っています」などなど・・・嬉しい声を沢山いただきました。そして参観日の姿からも、「自分で頑張っているのがよくわかりました。」「先生たちさすがです!」なんてお声もいただき、まずは良いスタートがきれたことを、みんなで喜んでいるところです。



子どもたちは集団生活の中で、たくさんの刺激を受けて力を発揮します。例えば先生に「おトイレに行って〇〇ちゃんえらいね～」と褒められているのを見ると真似したくなっちゃう。「自分でカバンを持ってきたらカッコいいな～」と言われると、「僕も!」「私も!」と、競争してどんどん取りに行ったりします。先生の言葉のかけ方はもちろんですが、同年齢と一緒に生活する中でお互いに刺激し合い、「自分のことを、自分でできるようになった姿」が沢山あるのです。

入園・進級してほんの少しの間に、成長した姿をお家の方に見て頂きたいと参観を企画しましたが「いつもの幼稚園どおり」に出来なかった子もいました。お客さんがいっぱい緊張もあったと思いますが、その場にお家の人がいることも一因かもしれません。お家では、泣いたりぐずったりすると「眠いのね」「お腹が空いたんでしょ」と気持ちがわかってもらえます。何も言わなくても「気持ちを汲んでくれる」お母さんに甘えてしまうのですね。

でも、幼稚園では自分のことは自分でやらなければいけないというギャップが子どもたちの中に生まれたのです。

自分でやる意識を持ち始めた子どもたちですから、お子さんの力を信じて、登降園時カバンは自分で持つ!抱っこしないで自分で歩く!そんなことから見直して、自立の心を育ててあげましょう。



# とんな

「とんな」は、ようちえんで起こる  
とんなとき・とんなこと・こ～んなにを  
折々お届けします。

## お腹すいた～

登園してお部屋に入ってくると、カバンをゴソゴソ始める年少組。おたより帳を出すのかと思いきや、出てきたのはお弁当でした。「今日ママ、おにぎり2つ入れてくれたの!」「ぼくイチゴ持ってきた!」と言いながらフタを開けて見せようとしています。「よかったね!楽しみね!」と受け止めながらも、ひっくり返しては大変と、先生も手伝って片付けます。とにかく、お母さんのお弁当が嬉しくて自慢したいようです。

活動を始める時間になって、「そろそろお片付けしましょう」と先生が声を掛ける度に、「おべんとうの時間?」と聞いてきます。時刻はまだ10時半。その後は「もうお腹すいたよ～」の大合唱です。

## 年少組



「全部食べちゃうぞ!」と意気込みが出て来た年少組



## 1年前は・・・

\*入園してしばらくの間、自分のお部屋も担任のことも、まだわからない年少さんに配慮して、数日間はお部屋の中で過ごすようにしています。

新学期がスタートして間もなく、こんなことがありました。「先生、お外で遊びたいんだけど～」とAくん。「そうよね。でも、今お外に行っちゃったら、年少さん帰って来られるかしら・・・」と先生。「えー！行きたいな」とKくん。するとAくんが、「そうか、今日はお弁当がないからね。今から遊びに行ったら、バスに間に合わなくなっちゃうね。」それを聞いたKくんも、「ぼくたちが出たら、年少さんも遊びたくなっちゃうんだ。」と思い直してくれました。年少さんの身になって考えたり、納得してガマンすることもできる様子に感心しながら、「年少さんが迷子にならなくなったら、お外に行こう。もうすぐだからね！」と、約束をしました。

ちょうど1年前、涙が止まらない年少さんでした。幼稚園生活の中で得た大きな成長です。



室内遊びの流行は、新しいお道具のピアノ力です。

## こ～んな子みっけ!



どこに注射されてるの!?



カメさんが大人気! 不安なことものんびり受け止めてくれるのかな?



手を合わせて挨拶のお手本を見せています。

## 年長だもん!

通園バスを降りると、ドアの傍でじっと待っている年長組。年少さんが降りて来ると、手を繋いでお部屋まで連れて行ってあげるのです。ほかにも、「お手伝いに来ましたっ!」と年少さんのお部屋に行き、お弁当の準備をしたり、お帰りの

支度を手伝ってあげています。最初のうちは、ごはんのご挨拶を待ちきれずに食べ始める子がいたり、支度中にいなくなる子もいましたが、それにも動じず、「おてては、こうやって合わせるんだよ。」「上手!」と褒めてあげたり、名前を呼んで探しに行ったりもします。テキパキと根気よくお世話をしてくれる年長組なのです。

ある日、「いつも優しくしてくれてありがとうね」と年少さんの代わりにお礼を言うと、「だって年長だもん!」とのこと。“年長がお世話するのは当たり前”と思っているようでした。年少さんの頃、お世話をしてもらったことを覚えていて、“年長になったらぼくもやってあげたい”と憧れの気持ちや目標にも似たような感じなのではないでしょうか。小さいながらも、思いは一人前なのです。



「お弁当のフタは下に敷くよ!」と、手取り足取り、教えてあげる年長組。